

三角巾をつかった包帯法

外傷の手当

土や砂などで汚れた傷口をそのままにしておくと化膿したり、傷の治りに支障をきたす場合があります。可能であれば、傷口を水道水などで十分に洗った後に包帯法を行います。

- 包帯法は傷の保護と細菌の侵入を防ぐために行います。
- 清潔なものを用いてください。(清潔なタオル等でもよい)
- 傷を十分に覆うことのできる大きさのものを用います。
- 傷口にはガーゼ等を当ててから、三角巾等で覆います。
- ◆強く巻くと血行障害を起こすので、注意して巻いてください。
- ◆結び目は、傷口の上を避けるようにします。

骨折の応急手当

骨折した場合は、患部に激しい痛み、腫れ、変形があり、けがの程度によっては骨が飛び出していることもあります。

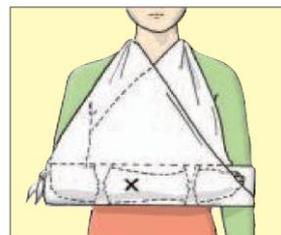
(1) 骨折部位の確認

- 傷病者から痛いところを聞き、部位を確認します。
- 出血の有無を確認します。
- ◆ 確認する場合は、痛がっているところを動かしてはいけません。
- ◆ 骨折の疑いがあるが、はっきり分からないときは、骨折しているものとして手当てします。

(2) 固定方法

- 協力者がいれば、骨折しているところを支えてもらいます。
- 傷病者が自分で支えることができれば、支えさせてください。
- 骨折部の上下の関節を含めて副子（固定する当て物）を当て、ハンカチや三角巾などで固定します。
- ◆ 副子は、骨折部の上下の関節が固定できる長さのものを使用します。
- ◆ 固定する場合は、上・下・上・下の順に固定します。
- ◆ 変形しているときは、そのままの状態を保ち固定します。

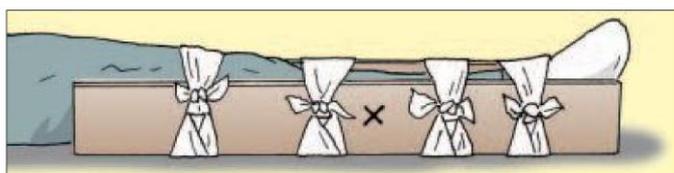
前腕骨折



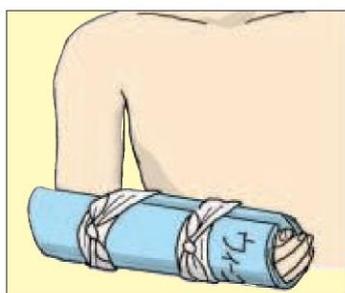
肋骨骨折



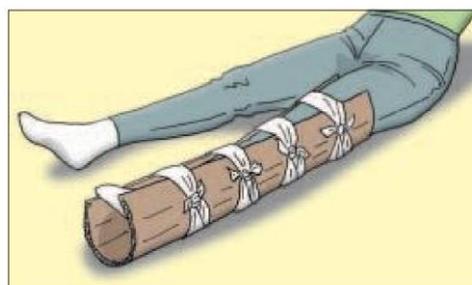
下腿骨折



(副子は、代用品として身近にあるものを工夫して使うことができます。)



▲雑誌を使用した前腕部の固定



▲段ボールを使用した下肢の固定